1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472100080
法人名	社会福祉法人　大泉会
事業所名	グループホームふるさと
所在地 （電話番号）	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72 （電　話）0224－32－2811

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成　20　年　8　月　5　日

【情報提供票より】平成20年7月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14　年　5　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14人	常勤　13　人，非常勤　1　人，常勤換算

（2）建物概要

建物形態	○併設／単独	○新築／改築
建物構造	鉄筋　造り	
	1 階建ての　階　～　階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	23,500　円		その他の経費（月額）	16,000　円
敷　金	有（　円）		○　無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ○　無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1，000	円	

（4）利用者の概要（7月　1日 現在）

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性　15 名
要介護1		3	名	要介護2	3　名
要介護3		7	名	要介護4	4　名
要介護5		1	名	要支援2	0　名
年齢	平均	86.8 歳	最低	78 歳	最高　101 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	大泉記念病院　　石川歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設の特養勤務を経てホームの立ち上げから関わった管理者は、客観的にグループホームを見ることができるという。入居者の重度化、新しい入居者に対するケアの方向性の難しさを課題にあげる。今年度は「ゆったり・いっしょに・たのしく・豊かに」という理念の一つひとつの言葉を深く掘り下げたことを職員で共有しケアにあたり、入居者の「できること」の見極めが難しくなってきている中でこれからを支えていこうとしている。今以上にグループホームを地域に理解してもらうことは、町としてももっと働きかけが必要と感じており、これからの課題とも言えるが、食べきれないほどの野菜の差し入れがあったり、ボランティアとして来てくれる方たちの協力を得て、地域の在宅の認知症ケアの拠点となるホームを目指していただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の改善事項は、①地域密着型サービスの理念②理念の共有と日々の取り組み③運営推進会議を活かした取り組みなど5項目であったが、①は地域密着型サービスの意義を考えた見直しはなされなかった。②は職員の異動により全職員が理念を共有し、実践にいかされるまでには至っていない。③はこれから具体的な成果がでる会議になっていくことを期待する。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 全職員に自己評価票を記入してもらい、管理者がまとめてそれをもとに話し合いを行った。毎日のケアで行っていることではあるが、改善点も見出され、職員の意識向上にも繋がっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 6月に始めての運営推進会議が行われた。今後概ね2ヶ月に一度の開催を予定している。ホームからの報告のみならず、メンバーからの要望や助言が得られる、活発な意見交換の場となっていくことを期待したい。更に記録を公表し、地域との繋がりが更に深まっていくことなど、成果が出る会議にしていただきたい。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 以前苦情とまではいかないが、県の相談窓口に寄せられたものに対して、行政とともに対応にあたった。家族会はあるがあまり機能しておらず、入居者が重度化してきている現状を支えるためにも家族の協力が得られるよう、運営推進会議などを通して働きかけてみることもよいのではないか。入居者の暮らしぶりや金銭管理の報告は定期的に行われているが、日常的な外出など些細なことが分かるきめ細かな報告もお願いしたい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 近隣に人家はないが、地区の敬老会・盆供養・夏祭りなど積極的に参加しているほか、地域の資源回収にも協力している。野菜の差し入れなどもあり、草刈り・踊りのボランティアなどは、認知症を理解された上で来訪している。また、幼稚園児や中学生の総合学習の受け入れなど交流を図っている。今年のホームの敷地内でのお花見に町の人権保護委員の参加があり、ホームが更に地域に認識されていくことに繋がることを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価で、地域密着型サービスの意義を考え現状にあった理念の見直しを検討していきたいとのことであった。しかし「ゆったり、いっしょに、たのしく、豊かに」というこれまでの理念の意味を改めて職員で話し合い掘り下げたことは評価できるが、地域密着型サービスとしての役割を反映した見直しは行われなかった。	○	地域の中で暮らし続けることを支えていくことを担うサービスとして、グループホームを更に理解してもらうためにも、地域の中でその人の生活を支えていく具体的な理念を作りあげていただきたい。ホームの方向性・目標を示すものとして、今後も現状にあった理念に作り変えていくこともお願いしたい。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとり理念についてアンケートを取り、話し合いを持った。しかし、職員の異動もあり、理念を意識し、具体的に実践に向けた取り組みが全職員意識づけされているとは言えない。	○	日常的には申し送り時などに振り返ってはいるが、法人内の異動により新しくきた職員には理念について十分説明し、具体的なケアに繋がる取り組みを行っていただきたい。
に					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から野菜の差し入れ、地区の敬老会などに参加している。草刈り・踊りなどのボランティアのほか、幼稚園児や中学生の総合学習の受け入れ、福祉を学ぶ大学生が来訪してくれる。今年のお花見には町の人権保護委員の参加もあり、さらに地域でホームが認識されていくことに繋がっていくことを期待したい。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を記入してもらい、管理者がまとめてそれをもとに話し合いが行われた。改善に向けた話し合いを行い、理念の見直しなど具体的な改善に取り組んでいく姿勢が見られた。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の6月に始めての会議が行われたばかりである。次回開催は委員の都合で9月の開催となるが、今後定期的な開催となるよう努めていきたいとしている。率直な話し合いの場となり成果が表れる会議を期待したい。	○	今後おおむね2ヶ月に一度開催し、ホームからの報告、サービス評価結果も報告し、メンバーからの要望や助言が聴かれる活発な意見交換の場となっていくことを期待したい。会議を通して更に地域との繋がりが増えていくよう、記録の公表も行っていただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健福祉課や地域包括支援センターなどと情報の交換を行い、町としても地域に認知症を理解してもらえるように協力していきたいとしている。グループホームを地域の社会的資源としていくために、認知症サポーター100万人研修などの事業にも取り組んでいただきたい。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子・金銭管理は家族の面会時などに説明し、サインをいただいている。遠方の方には電話で報告し、金銭管理については送付した日付を記入し、面会時サインを戴いている。ホーム便りで行事の様子も報告されるが、日常の外出など家族の目に触れない部分のきめ細かな報告もお願いしたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情はあまり無く、以前苦情とまではいかないがケアに関して県の相談窓口に寄せられたものに対して、行政とともに対応にあたった。家族会はあるがあまり機能しておらず、家族の率直な意見・要望を言ってもらえるよう働きかけていくことは、ホームの質の向上のためにも必要であろう。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に際して入居者に説明がなされ、新しい職員は自己紹介をするなどしている。法人内の異動は併設の特養であり、以前の職員が遊びに来ることもある。職員の腰痛対策など、健康状態による異動などの配慮もある。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はホームのありかたを見直すよい機会と捉え、法人の研修や外部研修に参加している。研修内容は申し送り時に報告したり、資料を全職員が閲覧したことがわかるようサインがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、交換研修を行うこともある。他ホームとの交流は事例検討など情報交換の場となっていることが、職員のヒヤリングからもうかがえた。しかし、協議会の全体会への参加はなかなか難しいとのことであるが、事業所の質の向上の為にも同業者との交流する機会を大切にしていただきたい。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得するまでホームに来てもらうことは、入居者同士の相性を見極めることもでき、馴染みの関係を築きやすい。地域密着型サービスとなり、行政との相談もしやすくなったという。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊敬の気持ちで接し、入居者が昔の話や方言などの話をした時に若い職員が分からなかったりするが、職員は昔と変わらない生活が送れるよう、その人の思いを分かってあげたいという気持ちがある。料理や漬物・蕗の塩漬け・昔の遊びなど教えてもらい、自信に繋がるよう支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事・入浴・日々のケアにおいて本人の意向を確認し、家族とも相談しながら把握に努めている。しかし、入居者の体力や車椅子の増加など、重度化してきた中で本人の思いを把握するのが難しくなってきており、職員で話し合いながら取り組んでいる。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入浴介助のときなど、日頃の関わりの中で本人の思いが聞かれることもあり、それも踏まえて職員で話し合いを行い作成している。場合によっては、医師などの意見を聴くこともある。介護計画は家族に確認してもらい、同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に一度、評価を行った上で見直している。退院後など本人の状況に変化があったとき、実情に応じた介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院の付き添いや、緊急時の搬送などの支援を行っている。尚、今後欠員が生じた場合は、デイサービスやショートステイの実施など、多機能性を活かした支援に努めたいとしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の通院は少ないが、家族の付き添いの際は情報交換を行っている。事業主でもある病院の医師が週2回往診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、家族と話し合いを行い医師と相談しながら対応してきたが、看取りと重度化に関する指針として明文化されたものはない。過去に看取りの実績があるので、今後本格的に取り組んでいく意向である。	○	事業主が医療機関であることは、家族にとっても心強いものがある。重度化・看取りに関する意志確認書を作成し、早期から事業所が対応できるケアについての説明・話し合いを行い、本人、家族の状況の変化も考慮しながら対応していただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけ、個人記録の保管、個人情報保護の取り扱いについては法人として文書で取り交わしている。名前を呼ぶ時は基本的には敬称の「さん」を使用しているが、家族の話から愛称の「ちゃん」で呼んでいるかたもいる。常に入居者を尊重するという気持ちを持って支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調も見ながらその人のペースで過ごしてもらうが、希望に添えないことがあり、入居者がその人らしい生活ができるよう重度化してきた中で課題となってきた。	○	入居者に「だめ」という言葉を使わないという理事長の教えもあり、入居者が主体であることを忘れず、話し合いを深めていきたいとのことであるので、一層努力していただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは難しくなってきている人もいるが、入居者の力を活かしながら後片付けなどできることをしてもらう。ホームの畑で収穫されたもの、野菜の差し入れも多く、新鮮な旬の食材が食卓に並ぶ。職員も同じテーブルを囲んで、さりげなくサポートしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日の入浴も可能である。拒否が強い方には声がけの工夫をするなどの対応をしているが、本人の意向を尊重し次の日入浴してもらうこともある。基本的には同性介助である。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞たたみは全員で行い、草取りやテーブル拭き、下膳などできることを行ってもらう。他の人のすることをみて、一緒にやり始める入居者もいる。庭に出た蕗の皮むきや、差し入れの枝豆取りなど季節を感じながら行うことができ、大切な時間であることがうかがわれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや遠足など出かけてはいるが、車椅子の方が多くなってきており、日常的になると難しくなってきている。敷地内には寄贈された観音様があり、車椅子の方でも散歩しながらお参りできる。今後家族や地域の人の協力も得ながら、本人の状況に応じた支援をしていただきたい。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	突発的に出て行く人がおり、周辺に人家がないため安全のためにセンサーを取り付けたが、日中は玄関・門扉の鍵はかけておらず、自由に出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の課題であった職員の非常呼集体制は確立された。応急用のAED，夜間を想定した避難訓練も含め年2回防災訓練を行っており、非常用の食料・備品も準備している。7月に2棟をつなぐ渡り廊下ができ、防火シャッターが取り付けられたため、改めてシャッターの使い方など実践的な訓練を行う予定である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特養の管理栄養士のたてた献立を基本とし、食べた量は記録している。水分の摂取量は注意の必要な人のみではなく一人ひとり記録し、常に意識することが大切である。医師の指導により体重の増加に注意しなければいけない人もおり、月に一度体重測定を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下のドアを外したことで開放感がでて、車椅子の方にとっても良かったという。テーブルの上には色とりどりの季節の花が飾られ、小上がりの畳のコーナーで洗濯物を畳んだり、ベランダでの枝豆のもぎ取り作業など、生活の場として居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や使い慣れた物を持ってきてもらい、中には本人や家族の意向により持込の少ない方もいるが、本人が過ごしやすく生活感のある居室となっている。		